

大阪府支援教育研究会創立65周年記念大会 分科会紹介

第1分科会 合理的配慮など法整備について

講師：関西学院大学 教授 丹羽 登 氏

演題：「合理的配慮から考える特別支援教育」

定員：100名

内容：「目指すインクルーシブ教育システム」や新しい「学習指導要領」の観点から、児童生徒への合理的配慮が求められ、各教育現場でも実行されていることと思います。このことで特別支援教育はどのように変わってきたのでしょうか。また、今後の特別支援教育についてもお話していただきます。

みなさんと一緒にこれからの支援教育を考えていきたい、と思います。

第2分科会 関係機関との連携（SSW）

講師：弁護士 峯本 耕治 氏

演題：「様々な課題を抱えた子どもへの生活指導・支援と保護者対応について」

定員：50名

内容：～ SSW視点、法的・危機管理視点からのアセスメント、プランニング、チーム対応、機関連携のポイント ～などをお話ししていただきます。

第3分科会 重度重複障がい児教育の現状と課題

講師：国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 齊藤 由美子 氏

和歌山県立紀北支援学校 教諭 南 有紀 氏

きらりハビリ訪問看護ステーション訪問看護師

滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座小児看護学研究室客員助手

元学校看護師 久保田 牧子 氏

大阪府立箕面支援学校 教諭 川村 朋子 氏

演題：「重度重複障がい児教育の現状と課題」

定員：50名

内容：医療の高度化、進歩もあり、いわゆる重度重複障がい児童生徒の実態は、医療的ケアの必要性など、ますますそのニーズは個別化しています。また、医療現場でのケアから在宅でのケアへの流れや、各校への学校看護師の配置などにより、通学対象となる児童生徒も増えています。

今回は個別の指導の現場として訪問指導の現場から、集団指導の現場ということで支援学校小学部の教育課程からの報告とともに、学校看護師から見た支援学校での教育について、それぞれの立場でお話しをしていただきます。

最後に特別支援教育総合研究所の専門家を交えて、今後の「重度重複障がい児童生徒の教育」について話し合います。

第4分科会 指導方法の工夫 (ICT活用)

講師：日本福祉大学 教授 金森 克浩

大阪教育大学科学教育センター 准教授 仲矢 史雄

演題：『支援教育におけるICT活用の現状とこれから』

定員：50名

特別支援教育の世界でもテクノロジーを利用した支援ということで、ICTの活用場面が広がってきています。日本福祉大学の金森先生からは支援教育におけるICT活用の考え方や様々な活用例などをお話していただきます。また、先生方の教材作成支援として大阪教育大学の仲矢先生を中心に取り組んでいる「OMLETプロジェクト」からは、「OMLET2」の紹介と開発、その実践例などをお話していただきます。

最後に、大学の研究者という立場のお二人で今後の支援教育でのICT活用について、会場の皆さんと意見交換をしていただく予定です。

第5分科会 児童・生徒理解

講師：立命館大学 教授 宮口 幸治 氏

演題：「子どもたちへの社会面の支援 ～ コグトレ（認知ソーシャルトレーニング）」

定員：100名

内容：「COGST」とは社会面支援のコグトレで、感情トレーニング、対人マナートレーニング、危険予知トレーニング、問題解決トレーニングの4つからなります。

今回はその理論と実際について宮口先生からお話をさせていただきます。

お申し込みについての諸注意

1. お申し込み受け付けは、大支援研のHPからのお申し込みとなっています。
必要事項を入力の上、お申し込みください。
2. 全体会と分科会の両方にお申し込みください。
3. 全体会は400名、各分科会にもそれぞれの定員があります。
4. 受け付け確認のメールが送られます。ご確認ください。
5. お申し込み受け付け前に定員に達していた場合はお断りをする場合があります。

スタッフ、講師の先生方を含めまして、皆さんとお会いできることを楽しみにしています！！